

## **第 14 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨**

日時：平成 23 年 10 月 6 日(木) 19:00～21:20

場所：佐土原総合支所

参加者：

□市民：38 名

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、港湾課、自然環境課、環境森林課、漁村振興課、農村整備課、

宮崎土木事務所、中部港湾事務所、中部農林振興局

(市)土木課、佐土原総合支所

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、吉武宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により議事が進められた。

まず、今夏の「台風通過後の状況と応急対策の予定」について事務局から説明し、質疑応答を行った。

その後、「宮崎海岸の侵食対策（案）の振り返り」、「第 12 回談義所以降の状況報告」について事務局から説明し、質疑応答を行った。

なお、予定時間を超過したため、予定していた「突堤の素材・形状について」の談義は行われず、機会をあらためることとした。

また、会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、談義所開催前に、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

質疑応答の概要は以下のとおり。

### **～台風通過後の状況と応急対策の予定～**

事務局より、「台風通過後の状況と応急対策の予定」について報告を行った。その報告に対する質疑応答を以下のとおり行った。

### **現在の現場状況の確認について**

[参加者]

- ・資料の写真は台風 12 号通過後 9 月上旬の状況だが、現在の状況を教えて欲しい。私が見る限り、資料は今の現場の状況と異なっており、「後退なし」と記載してある部分もかなり後退している。

[事務局]

- ・台風 12 号以降も台風 15 号等が通過しており、海岸の状況はその都度現場で

確認している。本日現場を確認しているが、台風 12 号以降、動物園裏（住吉海岸）から特に南の方の護岸との取付部等は、さらに 2m 程度後退している。

大炊田海岸は特に顕著な変化はないが、住吉海岸は大きな変化が見られる。

#### [コーディネータ]

- ・資料が 9 月時点の情報ということだが、改めてその後の変化の状況を事務局で確認し、資料を更新しておくこと。

### **自転車道の路線変更について**

#### [参加者]

- ・自転車道の復旧について、路線を変えるということは考えられないものか。台風が来るたびに壊れるであろう海沿いの自転車道を現状の位置で復旧するよりも、(内陸の)石崎浜荘の近くを通るルートを検討することはできなかったのか。

#### [事務局]

- ・今回の自転車道の被災対応については、災害復旧の原則から既存施設の復旧として実施する。
- ・ルートの見直しという提案については、宮崎から西都を結ぶ長いルートの中で、全体的な自転車道の維持管理の状況や災害の状況等を踏まえて見直しが必要な箇所があれば、県の道路関係部局に相談していきたい。

### **県が実施する災害復旧の対応について**

#### [参加者]

- ・なるべくコンクリートを使わず、より良い護岸を造ろうと皆で考えている中で、現状復旧（自転車道）のためとはいえ、なぜまた同じようにコンクリート構造物を造るのか。

#### [事務局]

- ・県もなるべくコンクリートを使わないという方向性は共有している。ただ、現在国と連携して侵食対策を進めていく中で、現在は対策が確定していない中の応急措置であるため、原形復旧での対応を考えている。
- ・将来、侵食対策が進めば、護岸の復旧方法についても状況は変わってくると考えている。

### **対応レベルの向上の提案について**

#### [参加者]

- ・対応レベルをもっと上げることを提案したい。例えば、台風通過後の浜崖後退の応急対策については、袋詰石での応急対策ではなく中長期的な観点から考えて欲しい。もし岩盤が浅めの所にあるようなら、お金はかかるがアンカーを打ってきちんと袋詰石を固定したら、効果も 5 年が 10 年に延びるように思う。

## **保安林と海岸の区域境界の設定について**

### **[参加者]**

- ・今回の災害（台風通過後の応急対策箇所）は保安林区域で生じたもので、海岸法では、森林法に基づく保安林には入ってはいけないということが定められており、国が保安林区域内での対策はできないと思われる。海岸法を確認して欲しい。

### **[事務局]**

- ・県の関係部局と協議して、保安林区域と海岸保全区域の境界について確定等の作業中である。なお、必要に応じて両区域の重複は可能である。

## **これまでかかった事業費について**

### **[参加者]**

- ・これまで養浜にかかった費用はいくらか教えて欲しい。
- ・あわせて、養浜以外にもかかった経費を教えて欲しい。

### **[事務局]**

- ・費用については整理した資料が、今、手元にない。

### **[コーディネータ]**

- ・費用については、改めて事務局で確認し、回答できるよう整理しておくこと。

## **具体的な袋詰石の内容の確認について**

### **[参加者]**

- ・応急対策として浜崖の基部に袋詰石を置いて対策するということだが、袋詰石とはどのようなものか。また、覆っている砂がなくなり、袋詰石だけがむき出しになった場合はどうするのか。再利用もしくは撤去等も考えているのか。

### **[事務局]**

- ・袋詰石は、人のこぶしより大きく頭より小さい石を、樹脂製のネットの中に入れて使用する。仮にむき出しになった時でも、人やウミガメが引っかからないようなネットを使用しており、すぐには危険にならないと認識している。
- ・また、中身の石は、再利用が可能であり、突堤の基礎等としても利用可能で、役目が終わっても無駄にはならない。
- ・袋詰石の撤去については、撤去して再利用するか、そのまま埋め戻すかは費用等との兼ね合いになるが、その時の状況により検討し対応したい。

### **[コーディネータ]**

- ・応急対策については、後半の侵食対策（案）で出てくる隠し護岸との兼ね合いもあるので、後ほどの事務局説明の後、再確認して欲しい。

## **これまで実施した養浜量について**

### **[参加者]**

- ・これまで実施した養浜量はどの程度か。

### **[事務局]**

- ・平成20年から平成22年までの3年間で、宮崎海岸全域において約50万m<sup>3</sup>の養浜を実施している。

### **[参加者]**

- ・大炊田海岸はこれまで養浜していないため、海底地形が痩せて今回浜崖が後退したが、動物園裏はこれまで養浜を実施してきたため助かった（浜崖が顕著に後退せずに済んだ）のではないかと考えている。

## **行政関係機関の連携について**

### **[参加者]**

- ・県・市は、国だけに頼らずに、連携しながら、急いで対応して欲しい。

### **[コーディネータ]**

- ・勉強会を始めた頃は、行政関係機関は縦割りでそれぞれそっぽ向いているのではないかとの批判があったが、本日も多くの行政関係機関がこの談義所に参加しており、連携は見えやすくなっていると思う。その意見については、もっと強く連携して欲しいとの要望と受け取っておきたいと思う。

## **～宮崎海岸の侵食対策（案）の振り返り～**

## **～第12回談義所以降の状況報告～**

事務局より、「宮崎海岸の侵食対策（案）の振り返り」「第12回談義所以降の状況」についてあわせて報告を行った。その報告に対する質疑応答を以下のとおり行った。

## **台風による浜崖後退を踏まえた侵食対策（案）への意見**

### **[参加者]**

- ・浜幅が50mあるのは理想だが、5mしかない現状に対して、あまりにも違いがありすぎる。昔は100m程度あった砂浜が侵食されて現状となっている。
- ・あと3回くらい台風が来たら無くなるであろう砂浜の背後地に住んでいる人間の生命と財産のことをもう少し考えて欲しい。
- ・消波ブロックを海岸に並べれば砂は流れないのに、なぜそれをしないのか。また、護岸と養浜だけだとどれだけ養浜しても南へ流されてしまうため、大炊田海岸にも100～300m程度の突堤を整備して欲しい。
- ・侵食対策（案）が決まったことであるなら、せめて大炊田海岸を優先するか突堤と同時進行で対策を実施することはできないか。突堤の完成を待っていたら、いつ対策してもらえるか分からない。

[コーディネータ]

- ・事務局は、応急対策と侵食対策（案）の関係、侵食対策（案）の順番について再度説明をお願いしたい。

[事務局]

- ・応急対策はその名のとおり応急的なものであり、それで何年も粘ろうとは考えていない。今年の台風による浜崖の状況を見て、侵食対策（案）の機能③（浜崖の急激な後退を抑制する）の工法決定、実施を待たずに、仮の対策として応急対策を実施する。
- ・侵食対策（案）の順番については、侵食対策（案）の機能①（北からの流入土砂を増やす）・機能②（南への流出土砂を減らす）・機能③（浜崖の急激な後退を抑制する）を並行して実施していくことを考えていたが、これだけ浜崖の後退が顕著になっているため、機能③を先行的に実施していくことも必要ではないかということについて、今後技術分科会で議論していきたい。

[コーディネータ]

- ・応急対策で本当に安全が確保できるのかという地元の方々の不安の声が非常に強かったということは、この談義所で位置づけておいて、技術分科会等にも報告していきたいと思う。

### **突堤に対する専門家意見の偏りについて**

[参加者]

- ・委員会の委員以外の著名な専門家の意見（突堤の周辺は洗掘されてしまい逆効果だという意見等）が取り扱われておらず、技術的に偏っていると思う。

[コーディネータ]

- ・個別にはそのような意見があるということは受け取るが、前回、前々回の談義所、委員会等では、侵食対策（案）の経緯・成り立ちについては理解したというのが、その時の参加者の大方の納得だったかと思う。

[事務局]

- ・今後は、必要に応じてモニタリングの段階で新たな専門家が入るということも考えられるが、現段階ではこれまで関わってきた専門家の意見を聴きながら、責任を持ってこの侵食対策（案）を作り上げることが重要と考える。

### **砂浜の後退の程度に対する予測について**

[参加者]

- ・養浜を施工しても大きな台風が続けば後退することが実証されたが、現実的に侵食対策を開始するまでの間に、どの程度侵食が進んでしまい、その後に回復が始まるという危機感を持たせる情報を出すことは可能か。例えば、2年後に抜本的な対策を始めたとして、どの位置から対策が始まるということを示すことはできるか。

[事務局]

- ・そこは施工手順に関係することであるが、どこを先に着手すればどの程度効果が出るのかということを検討する必要がある。あわせて、予算の状況、アカウミガメ配慮のための工事期間の制限等を想定すると、すぐに砂浜を回復出来るとは言えないため、応急対策だけではなく、抜本的な対策を早く決めて実施する必要があると考えている。現在、施工順序の検討を始めているところで、砂浜の回復の仕方についてはシミュレーションで確認できる。

[参加者]

- ・突堤の長さは関係なく、何も対策をしなければ1年後、2年後にどの程度後退するという検討はできるのか。

[事務局]

- ・あくまでもシミュレーションは平均的な波でどの程度後退するかという計算であり、平均的な波に対してこの程度後退するという検討はできる。
- ・ただ、今年の波は平均的な波よりも恐らく大きいため、来年はどの程度確実に後退するというところまでは計算結果としては出てこない。

[参加者]

- ・ここ10年程度の平均的なものでもかまわないので、1年後、2年後、3年後にどれくらい後退するのか予測をお願いしたい。

[コーディネータ]

- ・事務局で検討を行い整理しておくこと。

## **突堤の検討経緯について**

[参加者]

- ・昨年12月に第11回談義所が開催されてから、今年7月の第12回談義所までの開催に空白期間があったが、この突堤を決めたのはいつか。その間、突堤の話は全く聞いていなかった。
- ・海岸の勉強会を継続して欲しいと市民が強く要望して続けられたと思う。これからも検討経緯等も含めてきちんと勉強して意見を出すべきだと思う。

[事務局]

- ・確かに第11回談義所以降、空白期間があったが、それについては口蹄疫や新燃岳対応、東北の震災対応等のためであり、以前もお詫びしたところである。ただ、その間も検討はきちんと進めてきたということを理解して頂きたい。

[コーディネータ]

- ・検討のプロセスは後ろの表や閲覧資料にも整理しており、その都度どのような議論がなされてきたかはすべてオープンにしている。これらの資料を見て欲しいと思う一方、やはり皆の理解のためのコミュニケーションが必要だと感じた。本日は色々な話をもらったので、コミュニケーションについてはもっと改善しなくてはいけないと事務局にも要望したい。
- ・ただ、勉強会、談義所等を幾度となく実施してきて、きちんとプロセスを踏

んでこの案を作り上げてきており、そういう経緯を踏まえてきたという事実は市民も尊重して欲しいと思う。

- ・ステップアップサイクルについて事務局より補足説明をお願いしたい。

#### [事務局]

- ・今回、第9回委員会を経ても侵食対策から（案）が取れていないところも、宮崎海岸ステップアップサイクルならではだと考えているので、そのあたりも認識してもらえると有り難い。

### **模型実験のモデルの確認**

#### [参加者]

- ・前回の委員会を傍聴したが、模型実験が水平方向と鉛直方向の縮尺がひずみモデルになっているか、確認したい。

#### [コーディネータ]

- ・この質問については、後ほど事務局まで個別確認をお願いしたい。

### **その他**

- 「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」から以下の案内があった。
  - ・「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」の談義所での報告機会をなかなか確保してもらえないので、この場で敢えて発言したい。
  - ・色々な意見はあるが、皆美しい砂浜を求めている。「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」を案内しても参加者が少ないが、皆で汗を流しながら意見するのが良いと思う。
- 参加者から市民提案工法（砂抄工法）について、スライドを用いた紹介が再度あった。
- 宮崎港（東側）で大規模な補修工事を行っているが、現状報告して欲しいという要望があった。
- 参加者から模型を用いた海底地形の紹介があった。海底地形をもとに、宮崎の海岸は歴史的にも砂が北から南へ流れるということが紹介され、海図・海底地形図をもとにした説明の重要性を強調された。

## ～談義のまとめ～

談義の最後に、コーディネータが本日の談義の結果についての以下のまとめを行った。

- 応急対策との関係も含め、前回までに共有した侵食対策（案）に対する認識について、人によりきちんと伝わっていない部分があることを共有した。
- 侵食対策（案）に対するわかりやすい説明について（資料の整備も含め）改めて事務局で検討することを参加者と確認した。
- 台風後の応急対策と侵食対策（案）の関係について、わかりやすい説明が必要。
- 今年の台風で浜崖の後退が顕著だった大炊田地区において、対策の順番を早めて欲しい、大炊田にも突堤を整備して欲しいなどの意見があった。

以 上